

消火栓を活用した防災コンサルティング

改善後

法令設置+放水型ヘッド付加設置の場合

ポンプを起動させその後三方弁を切り替えるだけです。

壁に設置されたヘッドが自動で放水し、火を消します。その間に避難できます。

外には送水口を設置し、いざという時は消防隊からの送水により継続して放水が可能になります。

これなら安全かつ簡単ですね。

現状

法令設置の場合

従業員を安全な場所に避難させたら備え付けられている消火栓を使っています。

消火栓を取り扱う際は知識と技術が必要なので普段から訓練を行う必要があります。訓練通り協力しなから消火栓を起動します。

火の元に接近し放水します。炎や煙に巻かれる可能性があります。あるので大変危険です。

もっと安全で誰でも簡単に消火する方法はないだろうか。

そんな時は、放水型ヘッド付加設置をおすすめします！

倉庫での火災対策

見直しませんか？

とめる倉庫にて

焦げ臭い...

ボオオオオ...

火事だ!!! 逃げる!!!

解決!

法令設置+放水型ヘッド付加設置の場合

- 消火栓の配管から三方弁で分岐させて固定式の放水型ヘッドを設置する。(三方弁とする理由は消火栓と放水型ヘッドが同時に使用できないようになるため)
- 配管系統に送水口を設け外部から水の供給ができるようにする。
- ※所轄消防機関にご相談ください。

放水型ヘッド 放水量：300L/min

三方弁 通常時は消火栓側とする

屋内消火栓 放水量：130L/min

屋内消火栓ポンプ 吐出量：150L/min × 2台 = 300L/min

送水口

消火水槽 水源水量：130L/min × 2台 × 20min = 5,200L/min (5.2m)

補給水槽 配管充水用

誘導灯

安全なエリアに退避

放水型ヘッド 放水量：300L/min

三方弁 通常時は消火栓側とする

誘導灯

屋内消火栓 放水量：130L/min

屋内消火栓ポンプ 吐出量：150L/min × 2台 = 300L/min

消火水槽 水源水量：130L/min × 2台 × 20min = 5,200L/min (5.2m)

補給水槽 配管充水用

誘導灯

消防隊からの送水 (例) 水源水量：300L/min × 20min = 6,000L/min (6.0m)

法令設置の場合

- 倉庫関係には移動式に分類される消火栓の設置義務はあるが固定式の消火設備までの要求は無い。
- 火災時は人が火点に接近し放水して消火するため、炎や煙に巻かれる危険性がある。また消火栓を開く人と放水する人の2名が必要。正しく使用するには知識や技術を要するので、緊急時に有効に使われることが少ない。

補給水槽 配管充水用

誘導灯

屋内消火栓 放水量：130L/min

屋内消火栓ポンプ 吐出量：150L/min × 2台 = 300L/min

消火水槽 水源水量：130L/min × 2台 × 20min = 5,200L/min (5.2m)

誘導灯

屋内消火栓 放水量：130L/min

屋内消火栓ポンプ 吐出量：150L/min × 2台 = 300L/min

消火水槽 水源水量：130L/min × 2台 × 20min = 5,200L/min (5.2m)

補給水槽 配管充水用

誘導灯

炎による熱傷や煙に巻かれる危険性